

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K02684

研究課題名(和文) 英語による授業(EMI)実践に必要な諸要素の可視化とFDのための体系化

研究課題名(英文) Identifying component elements of English-medium content instruction (EMI)

研究代表者

桑村 昭(Kuwamura, Akira)

愛知県立大学・入試・学生支援センター・准教授

研究者番号：80625393

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：非英語圏大学のEMI実践現場は、終身雇用及び任期付の英語非母語話者主体の教員が、現地語(日本語等)媒介科目、語学科目、又は両方との兼任でEMIを担当していること、資格要件(教授技能や英語運用能力)を備えた教員の任用・養成、授業負担の軽減、支援体制が主課題であること、専門的研修及び教授法知識のニーズが高いことを内外の質問調査や聴取等により確認した。そして、これらの結果とEMI及び隣接領域の最新知見を拠り所に、効果的なEMI実践に必要なと思われる諸要素を抽出して、6つ(技能、知識、意欲、アイデンティティ、支援、研究)のカテゴリーに分類し、最終的にFD(教員研修)の材料として体系化した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまでの比較・国際教育学や国際教育交流分野での総論的なEMIの議論からEMI実践各論という新たな領域に踏み込んで、言語教育、内容言語統合型学習など隣接領域や先進的EMI研修の知見から非英語圏でのEMIの効果的な実践に必要なと思われる諸要素を抽出して、最終的に体系化を試みるという学際的・複合的なアプローチが特色であり独創的でもある。本研究の成果を非英語圏大学の異文化間教育の実践現場で日々研鑽する教員(特に英語非母語話者教員)によるEMI実践を支援するための教員研修を初め自己啓発の材料として現場に還元していくことは、社会的に意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：Based on two questionnaires and field surveys, the study finds regarding the status quo of EMI practice in non-Anglophone universities that EMI faculty typically consist of tenured and fixed-term, non-English or English L1 speakers and teach local language-medium course(s), language course(s), or both in addition to EMI, that placing and training faculty equipped with, for example, linguistic and pedagogical skills, reducing a teaching load, and providing support are key issues, and that there is a strong need for professional development and pedagogical knowledge. Out of these findings and others from EMI and its neighboring fields, component elements of EMI practice that would be necessary for its successful delivery at the tertiary level are elicited and then divided into six key categories (skills, knowledge, motivation, identity, support and research) and put together as a resource/framework for professional development for the current and prospective EMI faculty.

研究分野：英語教授法(TESOL)、第二言語による内容及び言語教育実践、高等教育の国際化

キーワード：英語による専門科目授業(EMI) 内容言語統合型学習(CLIL) EMI教員(専門・語学教育) FD(教員研修) EMIの構成要素 可視化・体系化 教授法

1. 研究開始当初の背景

2000年代以降、非英語圏における大学国際化の一環としての **EMI**（**English-medium instruction**）の急速な普及に伴い、その調査研究についても、**EMI** 導入の背景など総論的な議論の広がりを見せていた。その一方で、**EMI** 実践上の諸課題（教授技術、準備度合、教員の任用・配置等）の解決に取り組む各論の研究はまだ稀有で、比較・国際教育学や初期の **EMI** 研究の枠組みの中だけの議論では限界があった。英語による教養・専門科目の授業を効果的に進め、言語・文化的に多様な学生の学修ニーズに応えていくためには、内容言語統合型学習（**CLIL**）、英語教授法（**TESOL**）、バイリンガル教育といった隣接分野の蓄積を生かした学際的な各論の議論が **EMI** 実践の進展に益々必要な状況にあった。

2. 研究の目的

非英語圏大学の教育現場で **EMI** を担当する教員の背景情報、**EMI** 実践上の課題・ニーズについて内外の調査により把握しながら、効果的な **EMI** 実践に必要と思われる諸要素を抽出・可視化して、**FD**（教員研修）のための材料として体系化するのが目的である。

3. 研究の方法

研究目的を達成するために、質問紙調査、国内外での参与観察・視察、国際教育及び言語教育学会での最新知見の聴取、各国関係者との情報・意見交換、資料収集、文献調査等により多角的に、広範なリソースから情報・データ収集した。

(1) 質問紙調査（2016年）

EMI を開講する国内の国公立大学 260 校（2016 年 1 月文部科学省宛照会による）対象のオンライン（一部郵送）調査（回答数 99：78 大学 21 部局）と、欧州の状況を調べる為にブリュッセル（2015 年）での「高等教育における内容言語統合（**ILCHE**）シンポジウム

の参加者（教員中心）170 人対象のオンライン調査（回答数 25）を各々実施した。質問は、一部を除き多肢選択式で、所属大学（設立形態と学生数）、教員の状況、実践上の課題とニーズについて聞いた。質問数は、国内が 19 問（記述式 1 問）、欧州が 21 問（記述式 3 問）で、後者が 2 問多いのは、対象者が多国籍（11 カ国）で教員主体なので、本人の母語と担当科目の教授法に関する質問項目を加えたかったからである。

(2) 参与観察・視察（2016～18 年）

英オックスフォード大（**EMI**）、欧州国際教育学会 **EAIE**（**EMI**）、豪クイーンズランド大（高等教育 **CLIL**）のワークショップを参与観察し、講師・参加者から情報収集した。このうち、**EAIE** は内容を録音し分析した。また、米州立デラウェア大学集中英語プログラムを視察し、留学生 **TA**（**ITA**）や英語非母語話者教員への研修実績等について関係者から聴取した。

(3) 学会での知見聴取・意見交換など

助成期間中に国内外で開催された国際教育学会（北米 **NAFSA**、欧州 **EAIE**、アジア・太平洋 **APAIE**、**QS-Apple**）及び言語教育学会（**TESOL**、**JALT**）にて研究発表やセミナーの参加者や登壇者から、**EMI** 及び隣接領域（**CBI**、**CLIL**、**ILCHE**、**TESOL/ITA**、**ESP/EAP**、バイリンガル教育他）の最新知見の情報を聴取し収集した。また欧州大学 **EMI** 関係者との間で研究交流を進め、発表資料の交換や **EMI** 教員をテーマとする研究発表や刊行する著作物の内容について情報共有した。このほか、一種の **FD** 活動として、米国州立大学による教員研修（**TIE: Teaching in English**）プログラムの説明会を所属大学の教員対象に実施し、日本を始め非英語圏大学 **EMI** 教員の状況について同大関係者から情報収集した。

4. 研究成果

(1) EMI 担当教員の背景情報 () 内の数字は回答数

国内調査(回答総数 99)の結果、教員の母語は多様で、日本語と英語(各 74)を始め、中韓西露語など 20 に及ぶ他言語(35)も含まれていた。教員の構成は、日本語母語話者主体(32)、英語母語話者主体(23)、又は日英語と他言語母語話者(17)で、終身雇用主体(37)、終身、任期付及び非常勤(31)であった。EMI 科目は、学部専門教育(67)、大学院修士(49)、学部教養教育(45)の各課程で、主に人文社会系(69)、理工系(38)分野で開講され、教員の専門(人文社会 71、理工 39)と呼応する傍ら、教員の配置は、日本語媒介授業(JMI)との兼任(60)、EMI 専任(45)、語学科目との兼任(42)、JMI と語学両方(25)との兼任と、回答大学の 60%以上が兼任体制を敷いていた。一方、教員の任用は、公募(65)か学内推薦(38)に委ね、資格要件として教授科目の知識(70)のほかは、授業経験(24)、英語運用能力(23)、海外経験(16)を求める大学が若干ある程度であった。特に、英語運用能力については、教員任用時に TOEFL 等公的試験のスコア提示を求める大学は皆無で、英語母語話者または相当の能力保持者とする回答を散見する程度であった。

(2) EMI 実践上の課題とニーズ

課題領域としては、教員の負担(55)と任用・確保(50)が最も多く、実践現場では継続配置が課題との声も上がっている。以下、支援体制(33)、英語運用能力(30)、準備度合(24)、雇用条件(12)、その他(7)の順で、雇用条件への関心度が比較的低いのは少々驚きであった。ニーズは、教授法の知識・ノウハウ(46)を筆頭に、インセンティブ(29)、専門的研修(28)、使用教材含むリソース(28)が続いた。最後に、専門的研修については設けていない(65)が設けている(24)より圧倒的に多く、今後も FD(教員研修)の機会を設ける予定はない(21)、分からない(50)大学が全体の約 70%を占めた。

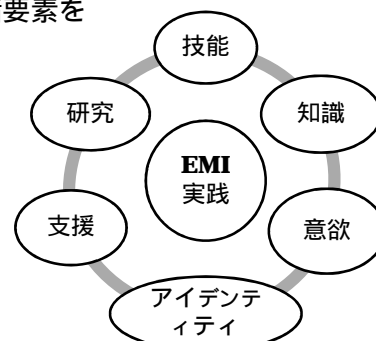
対照的に欧州では、教授言語運用能力、追加言語による授業実践への意欲など、教員の質が重要課題となっている。前述の ILCHE(高等教育における内容言語統合)2015 の参加者調査(回答者 25 人中、英語媒介語教員 19 人、蘭語、仏語媒介語教員各 1 人)では EMI 等教員は現地語母語話者主体で、任用は推薦(0)に拠らず公募(15)で行い、専門分野の知識(19)に加えて言語運用能力(14)を資格要件として特に重視している。主な課題は教員の準備度合(13)、言語運用能力(12)、負担(12)で、教員個々のニーズは、専門的研修機会(13)、教授法の知識(11)、言語運用能力(10)の順で多かった。専門的研修は実施している(13)が実施していない(5)を上回り、他調査と総合すると欧州 EMI 実践の共通の傾向のようである。

一方、韓国、中国及び台湾など他の東アジア諸国では、英語圏で学位を取得した自国出身教員を任用時より率先して EMI 科目授業に配置していることが聞き取り調査等で伺えた。

(3) EMI 諸要素の抽出・整理と FD の材料としての体系化

以上の調査結果や内外の様々な EMI の隣接領域・研修現場の知見を基に、非英語圏での EMI 実践に必要と思われる教授法の知識など諸要素を抽出・可視化した。抽出に際しては、教員の英語運用能力や教授技術に留まらず、英語で授業を行う英語非母語話者教員の精神的な側面、EMI 予備教育の役割、専門教育と語学教育の連携など、新たに浮上している重要項目にも着目した。

それらの諸要素を大きく 6 つの領域(知識、技能、意欲、アイデンティティ、支援、研究)に分類して(右図)、FD(教員研修)の材料として整理したのが下表である。



< **EMI** 実践の構成要素モデル >

領域	構成要素
技能 Skills	教授技能 Pedagogical skills ・ 第 2 言語教授技術 L2 teaching techniques ・ 英語による専門概念・用語の指導法 ・ 概念理解促進の為に学習者母語の使用 L1 use ・ 言語と内容を跨る教育指導 Integrating content & language ・ 双方向の授業 Interactive presentation コミュニケーションスキル Communication skills ・ 対人コミュニケーション Interpersonal communication ・ 異文化コミュニケーション Intercultural communication 言語技能 Linguistic skills ・ 英語運用能力 (例: CEFR B2 ~ C1) English language proficiency ・ 発話の明瞭さ Intelligibility/comprehensibility メタ認知能力 Metacognition ・ 自己効力感: 意図した結果を生み出す能力 Self-efficacy ・ 自身の言語能力や教授スタイルの客観視 Objectivity
知識 Knowledge	学術及び言語知識 Academic content and language ・ 一般学術知識 General academic literacy ・ 専門学術知識 Discipline-specific literacy 教授法の知識 Pedagogical knowledge ・ 英語教授法 (TESOL): EFL/ESL, EAP, ESP, ITA 教育 ・ 他隣接領域: 内容言語統合 (CBI, CLIL, ICLHE), bilingual 教育等 現地語の知識 Knowledge of the local language
意欲 Motivation	追加言語での専門分野 (disciplinary content) の教授意欲 言語・文化を跨る教育への真摯の関心 追加言語による大学教育の専門・個人としての重要性
アイデンティティー Identity	追加言語環境での専門家としてのプロ意識、専門性、権威の維持 追加言語での教授スタイルの確認 Teaching style 教員としての信念 Teacher's belief
支援 Support	専門的支援 Professional support ・ 研修機会・リソースの提供 Training & resource availability ・ 教員 (専門科目・語学科目) 専門分野、学部間の連携 言語的支援 Linguistic support ・ 英文のライティング・シラバス・校正、日英翻訳、口語英語等 事務的支援 Administrative support ・ 財政的支援 Funding, incentivizing faculty ・ 担当職員の配置 Hiring supporting staff 教育的支援 Educational support ・ EMI 予備教育等 Pre-EMI courses (CBI, EAP, ESP, CLIL 等)
研究 Research	EMI 研究 EMI research 学際的研究 Interdisciplinary research

このうち、技能と知識は **EMI** 実践に最も必要と思われる 2 領域で、今後も益々その重要性を増すことは内外で大方一致するところでもある。特に教授法については各国とも模索を重ねており、必然的に、内容言語統合学習 (**CBI, CLIL, ICLHE**)、**ITA** (留学生 **TA**) 教育、学術知識獲得のための母語使用、学術・専門英語 (**EAP, ESP**) など隣接分野の知見に委ねることになる。また、実践現場では、教授技術、英語運用能力、専門知識を全て備える教員は少数派で、専門科目教員 (**content specialists**) と語学科目教員 (**language educators**) が連携し相互補完的に **EMI** 実践を担う構図となっている。従って現場の教員のための専門的な研修機会を始め、英語非母語話者教員への言語支援や **EMI** の予備教育と抱き合わせた

カリキュラム編成なども教員の能力を有効に活用する意味で大切である。

技能と知識以外の領域についても、**EMI** 実践に取り組む意欲やアイデンティティといった、追加言語という母語以外での教育実践が教員に及ぼす心理的な側面も見逃せず、研究ニーズも増加している。**EMI** 先進の欧州では教員の養成を行う大学が着実に増えている印象で、背景には多言語多文化環境での追加媒介言語による教育の質向上が、特に少数言語が現地語の北欧諸国等には使命感・危機意識としてある。アジアでは学修ニーズに応じた教員研修(**FD**)を提供する大学は少なく、ノウハウの蓄積も含めて今後の大きな課題といえよう。

(4) 今後の展望

本研究課題の成果の一部は極めて限定的ながら内外の第一線の **EMI** 研究者に引用されてはいる。だが、**EMI** 実践の構成要素の体系化という研究者の試みはまだ初期の段階に過ぎず、**EMI** 教員の評価・認定など資格要件の議論と摺り合わせながら、大学教員の役割可能性(下表参照)とその役割を担うために必要な条件や専門的研修 (**Professional development**) の観点から、**EMI** 実践の各論の議論を高次に整理していく必要がある。

< 大学教員(専門及び語学教育) の相互補完的な **EMI** 実践の役割可能性 >

語学科目教員	専門科目教員	語学・専門両科目教員
予備教育 CBI/ EAP/ESP 内容言語統合 CLIL (言語主) EMI 科目: 教養教育 教員養成・言語支援	内容言語統合 CLIL (内容主) EMI 科目: 専門教育	予備教育 CBI/EAP/ESP 内容言語統合 CLIL EMI 科目: 教養・専門教育 教員養成・言語支援

< 引用文献 >

Brinton, D.M., & Snow, M.A. (2017). The Exploring Architecture of Content-Based Instruction, 2-20. In Brinton, D.M. & Snow, M.A.(Eds), *The Content-Based Classroom*. Ann Arbor: University of Michigan Press.

Kaufman, D., & Brownworth, B. (Eds.) (2006). Professional Development of International Teaching Assistants. Alexandria: Teachers of English to Speakers of Other Languages, Inc. (TESOL).

Kling Soren, J. (2013). *Teacher Identity in English-Medium Instruction: Teacher Cognitions from a Danish Tertiary Education Context*. PhD thesis. Faculty of Humanities, University of Copenhagen. Retrieved from https://tel.archives-ouvertes.fr/file/index/docid/863816/filename/Ph.d._2013_Kling_Soren.pdf

Kuwamura, A. (2018). The Future of English-Medium Instruction in Japan. In Bradford, A. & Brown, H. (Eds.), *English-Medium Instruction in Japanese Higher Education: Policy, Challenges and Outcomes* (pp.265-282). Bristol: Multilingual Matters.

Kuwamura, A. (2019). English-Medium Instruction and the Expanding Role of Language Educators. In P. Clements, A. Krause, & P. Bennet (Eds.). *Diversity and inclusion*. Tokyo: JALT.

Pecorari, D., & Malmström, H. (2018). At the Crossroads of TESOL and English Medium Instruction. *TESOL Quarterly*, Vol. 52 (3), 497-515.

渡部良典、池田真、和泉伸一『**CLIL**(内容言語統合型学習)上智大学外国語教育の新たな挑戦 第一巻 原理と方法』. 東京: 上智大学出版、**2011** 年 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Kuamura, A.	4. 巻 JALT 2018 PCP
2. 論文標題 English-Medium Instruction and the Expanding Role of Language Educators	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Diversity and inclusion. Tokyo: JALT.	6. 最初と最後の頁 16-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.37546/JALTPCP2018-03	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 桑村 昭	4. 巻 91
2. 論文標題 日本の大学におけるEnglish-Medium Instruction (EMI) の役割：課題と展望	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ウェブマガジン 留学交流 10月号	6. 最初と最後の頁 9-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件／うち国際学会 9件）

1. 発表者名 Akira Kuamura
2. 発表標題 What makes an effective EMI practice in higher education?
3. 学会等名 全国語学教育学会（JALT）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Kuamura
2. 発表標題 Identifying component elements of English-medium content instruction (EMI) for professional development in non-Anglophone higher education
3. 学会等名 英語教授法（TESOL）学会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1．発表者名 Akira Kuwamura
2．発表標題 Increasing reciprocity between Anglophone and non-Anglophone countries to benefit students
3．学会等名 NAFSA: Association of International Educators 於Philadelphia市（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 桑村 昭
2．発表標題 日本の高等教育における英語を媒介語とした専門科目授業（English-Medium Instruction）の意味とその定着に必要な諸条件の考察
3．学会等名 日本比較教育学会第54回大会 於東広島市（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 Akira Kuwamura
2．発表標題 English-medium content instruction (EMI) and professional development for its faculty
3．学会等名 QS-Asia Pacific Professional Leaders in Education (APPLE) 於ソウル市（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 Akira Kuwamura
2．発表標題 EMI and the expanding role of language educators
3．学会等名 The Japan Association for Language Teaching (JALT) 44th Annual International Conference 於静岡市（国際学会）
4．発表年 2018年

1. 発表者名 桑村 昭
2. 発表標題 英語による専門科目の授業（EMI）担当教員の陣容と実践現場の状況に関する一考察～日本の大学の場合
3. 学会等名 日本比較教育学会第53回大会 於東京大学（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akira Kuwamura
2. 発表標題 English-medium instruction and professional development needs in Japan
3. 学会等名 European Association for International Education (EAIE) 於セビリヤ市（スペイン）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akira Kuwamura
2. 発表標題 Educating Students in Japan as Global Citizens - Government initiatives to produce globally competent human resources in Japan: Progress and issues
3. 学会等名 Asia-Pacific Association for International Education（国際学会）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Bradford, A. & Brown, H and the authors of individual chapters (Chapter 17 contributed by Akira Kuwamura)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 英国ブリストル市・Multilingual Matters	5. 総ページ数 全300頁のうち、第17章 18頁（265-282頁）を担当
3. 書名 English-Medium Instruction in Japanese Higher Education: Policy, Challenges and Outcomes	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6 . 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----